

めんながわくわく

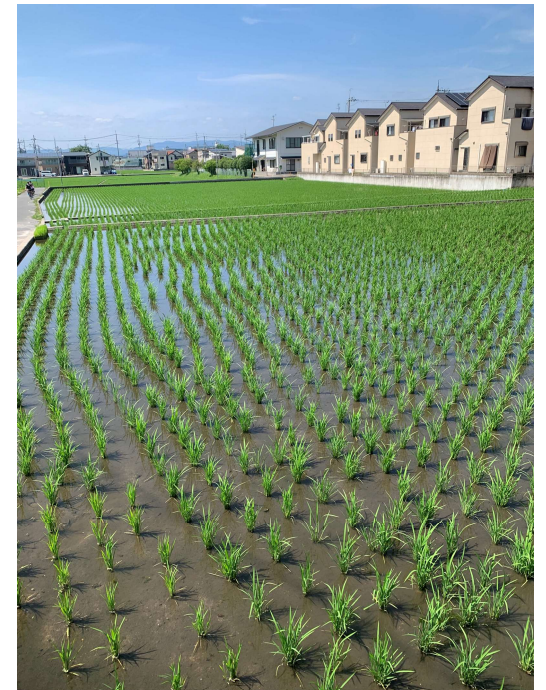
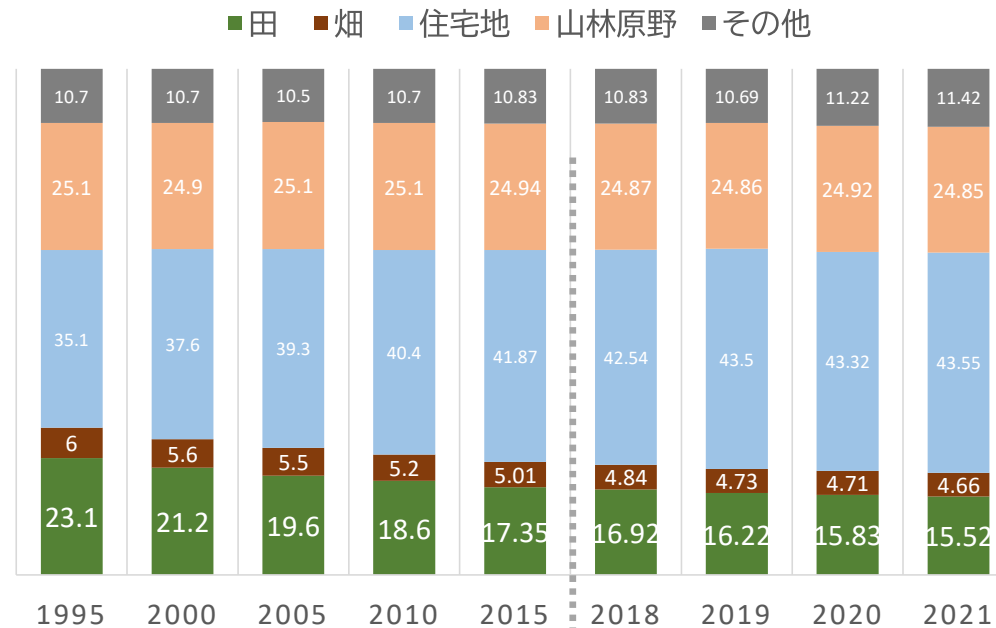
● 市民農園や直売所など、農地と緑、農家さんを守る取組み

交野の大きな魅力のひとつは自然。開発や便利さも大切な要素ではありますが、年々変わりゆく交野の風景を体感し、自然を残してほしいと願う市民も少なくありません。高速道路が通り、道が整備され、商業施設が立ち並び、誰しもが確かな恩恵を受けているものの、同時に**交野らしさを失っていくのではないか**という不安もないでしょうか。

大切なのはそのバランス。意識して自然を守るアクションもしていかなければ、交野の自然＝魅力は失われていきます。SDGsという言葉も浸透してきましたが、**持続可能なまちづくり**という意味でもとても大切な要素です。

下記は交野市内の地積割合の経年変化です。基本的に山林面積は変わりませんが、**田んぼと畑は年々減って**、住宅地に変わっていきます。1995年に29.1%あった田畑は2021年には20.1%、面積としては1,174,755㎡(117ha)減少しました。もちろん住宅や商業施設が増えて、人口増や経済活性化にもつながるので、過去に戻ればよいという単純な話ではありませんが、自然を守る取組み、**緑豊かな交野という他市との差別化**は必ず必要です。

地積割合の経年変化



1995年田畑面積
3,544,065㎡

1,174,755㎡(117ha)減少

2021年田畑面積
2,369,310㎡

● 市民農園や直売所など、農地と緑、農家さんを守る取組み

交野の中にも小さな青空市や無人販売、スーパーの中の生産者コーナーなどありますが、現在直売所はありません。隣まちの直売所まで買い物に行くという話も聞かれることを思うと、魅力ある直売所ができれば、農産物を通じて活気あふれ、老若男女が集うコミュニティの拠点にもなることでしょう。

農家さんの人手が足りない件に関しては、例えば市外から農業をしたい人たちを呼び込むこと。例えば援農のシステムをつくること。費用対効果としては、給食の食材して買い取りを市が保証することなど、いずれも簡単ではないのかもしれませんが、初めからそれは無理と決めつけず取り組むことで、あらゆるハードルは超えられるはずですよ。

千葉県いすみ市は、2017年学校給食において100%有機米を実現しました。2012年から「自然と共生する里づくり」として、農家さん、JA、市役所関係部署が一体となって取り組んだ賜物だそうです。このことは子どもがわくわくの給食の件でも触れましたが、あらゆる副産物があり、農地や農家さんを守ることもつながります。第一次産業を大切にし、町の中での食料自給率が上がるという事は、将来の食糧難の可能性を鑑みてもとても有用なことです。子どもたちの田植え体験も復活できたらいいですね。



● くらしとせいじカフェを月に1回開催

海外ではカフェで当たり前政治の話ができるそうです。議論はあってもケンカにはなりません。まずは、みんなでまちのことをあれこれ話すことから始めましょう！正しい、間違いではなく、いろんな意見を交換しましょう。市民の意見を反映するのが市政です。

● 議会の内容をわかりやすい言葉で発信

暮らしは政治そのもの。無関係でいられる人はいません。けれど、投票率は50%程度です。広報とともに配られる「議会だより」政治の言葉はどれも難しく、よくわからないと感じる人も多いはず。議会の中でどんな話がされて、どんな意見があって、どのように決まっていったのか、もっとわかりやすくやさしい言葉で知りたいと思いませんか？わかるともっと面白くなる！市政は特定のだれかのものでなく、市民みんなで作り上げるものです！SNSや定期的な機関紙で市政の情報が届くことを目指します。

